平成31年1月発行

ふくいの土地改良

258

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2018　クボタ賞

「　いねかり　」　福井市文殊小学校5年　田中 陽悠さん

新年のごあいさつ　・・・・ 1～7

【インフォメーション】
平成31年度 農村振興局関係予算概算決定の重点事項　・・・・ 8～10

「第41回全国土地改良大会 宮城大会」に参加　・・・・ 11

「農業農村整備の集い」に参加　・・・・ 11

要請活動報告　・・・・ 12

【インフォメーション】
土地改良区の維持管理計画の変更手続が簡素化されます　・・・・ 13

【不定期連載】　土地改良区だより
・足羽川堰堤土地改良区連合　・・・・ 14

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2018結果報告　・・・・ 14

水土里ネットふくいの行事　・・・・ 15

農業基盤整備資金利率のお知らせ　・・・・ 15

福井県土地改良事業団体連合会（水土里ネットふくい）

新年のご挨拶

水土里ネットふくい　会長　　山　崎　正　昭

新年あけましておめでとうございます。

平成３１年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員並びに関係者の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

日頃より農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営に格別のご支援とご協力をいただいておりますことに心より感謝とお礼を申し上げます。

昨年は、西日本豪雨災害や北海道胆振東部地震をはじめ全国各地で多くの災害に見舞われました。本県におきましても、昭和５６年の豪雪以来３７年ぶりの大雪、７月の梅雨前線に伴う豪雨など、県民の生活を脅かす災害が発生いたしました。被災されました方々には心からお見舞い申し上げます。全国で例外なく頻発する災害を踏まえ、改めて防災・減災、国土強靱化対策の重要性と緊急性を強く感じたところでございます。

他方、昨年は本県で開催された「福井しあわせ元気」国体での天皇杯獲得、福井県産新ブランド米「いちほまれ」の本格販売をはじめ、北陸新幹線の２０２３年敦賀開業に向けた順調な工事進捗の状況や平成１１年から整備が進められていた国営かんがい排水事業九頭竜川下流地区の完了など、喜ばしいニュースも多くあった年でございました。

さて、本年は、平成天皇陛下が御退位され元号が変わる大きな節目の年です。新しい時代のスタートとなる年を我々、土地改良関係者は「闘う土地改良」の精神の下、一致団結して大きく飛躍する年としなければなりません。

先ずは、農業農村整備関係予算でございます。民主党政権時代に削減された予算も関係各位の尽力により着実に回復して参りました。しかしながら、予算の１/４は補正予算に頼っている状況であり、安定的・計画的な事業実施のためには当初予算での十分な予算確保が必要であります。

また、国においては、災害に強い国土を目指し「防災・減災、国土強靱化のための３ヵ年緊急対策」として、平成３０年度２次補正予算から必要な予算を特別枠として措置することとしております。

更に、国の「農業競争力強化プロジェクト」に基づき、農用地の利用集積の促進と防災・減災対策の強化に向けた土地改良法の改正に続き、昨年６月には、組合員資格の見直しを柱とする土地改良区の組織・運営に関する改正が行われました。

我々、土地改良関係者は、こうした国の施策・動向を注視しつつ、組織強化を図りながら農業農村整備事業の着実な推進を通じて、積極的にその責務を果たして行かなければならないと考えております。

加えて、本年７月の参議院選挙に向け「宮崎まさお氏」が強い決意を持って活動を展開しております。進藤かねひこ参議院議員同様、所期の成果が得られるよう土地改良関係者の皆様方の再度の奮闘をお願いするものであります。

水土里ネットふくいと致しましても、土地改良が農業・農村を担って行くとの気概を持って役職員一丸となり、また、会員の皆様と連携を図りながら努力して参る所存であります。引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

地域の発展に貢献する力強い農業の実現に向けて

福井県知事　　西　川　一　誠

水土里ネットふくいの皆様、新年明けましておめでとうございます。

日ごろから農業・農村の発展にご尽力されていることに深く感謝いたします。併せて、農政推進にご協力いただいていることに対し、厚くお礼申し上げます。

さて、「いちほまれ」については、昨年からＪＡと共に、県内をはじめ、首都圏、中京・関西で本格販売を開始しました。五木ひろしさん出演のＣＭや全国放送のテレビ番組での放映により知名度も上がり、好調な売れ行きとなりました。今後もＪＡと一体となって、「いちほまれ」を日本一のブランドに育て、コシヒカリやハナエチゼン、あきさかりなど福井米全体の評価を上げることにより、米農家の所得を最大化してまいります。

本県には、昨年、事業が完工した九頭竜川パイプラインを始め、美味しいお米を生産する基盤が整っております。今後は、ＩＣＴを活用した自動給水装置など、スマート農業の実証・導入を進め、日本トップクラスの競争力を持つ産地を育てていきます。

米政策については、国に対し、米の生産過剰に対する指導強化、経営所得安定対策に係る十分な予算確保、米の消費拡大について要望してきました。安心して営農継続できるよう本年も引き続き、国に強く要望していきます。

園芸については、水田を活用した園芸により白ネギやキャベツ、タマネギなど、定植機の導入を支援し、生産拡大を進めております。水田を活用した園芸の面積は、この４年間で５０haから２５０haへと５倍に拡大しました。

また、県内１３か所の大規模園芸施設の整備が進むとともに、坂井北部丘陵地、三里浜砂丘地では、若手農業者などの初期投資の負担を減らすため、ＪＡによるリース方式の園芸ハウスの整備が進むなど、園芸生産が拡大しています。

こうした競争力のある農業を育てる一方で、中山間地域において、地域住民が農業継続できるよう農作業を受託するサポーター制度の充実や、規模拡大を伴わない小さい農業の継続に対する機械装備への支援を行い、引き続き農地の保全に努めてまいります。

これから、本県農業を巡る環境は大きく変化していきます。２０２０年度に予定されている県内１ＪＡ化については、これを契機に生産や販売を大幅に強化し、農家所得の最大化を実現することが重要です。県としても、広域的な集出荷・貯蔵施設の整備など、ＪＡの取り組みを応援してまいります。

さらに、北陸新幹線敦賀開業に向け、本県農業を食品加工や観光、先端技術など様々な分野と融合させ、人を呼び込み地域の発展に貢献する力強い産業へと発展させてまいります。

年頭に当たり、皆さんのご多幸とご活躍をお祈り申し上げまして、新年のごあいさつとします。

年頭挨拶

北陸農政局長　　奥　田　　透

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より農林水産行政の推進にご理解、ご協力を賜り、とりわけ農業農村整備事業の推進にご尽力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

昨年は、北陸のみならず全国各地で大規模な自然災害が発生しました。災害に見舞われた方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、ご承知のとおり、北陸地域では、耕地面積の９割を水田が占めており、水稲を中心とした農業経営が盛んに行われてきました。しかしながら、日本の総人口や一人当たりの米の消費量は減少局面にあり、米に対する需要の低下が今後とも見込まれています。

福井県では新品種「いちほまれ」が本格デビューを果たし、今後、市場における流通の拡大が期待されるところでありますが、農家の所得の維持・向上を図るためには、需要に応じた米の生産・販売に加え、高収益作物の導入、複合経営への転換などを目指す必要があります。このためには、農地の汎用化や畑地かんがい施設の整備を行う農業農村整備事業の推進が引き続き重要であると考えております。

更に、平成30年６月に閣議決定された「未来投資戦略2018」において「スマート農林水産業の実現」が位置づけられました。「スマート農業」とは、農業のあらゆる現場において、ICT機器を幅広く導入し、栽培管理等をセンサーデータやビッグデータ解析から最適化することにより、熟練者の作業ノウハウをAIにより形式知化したり、実作業をロボット技術等で無人化・省力化することです。

これを受け、自動走行農機等の導入・利用に対応した土地改良事業の推進、農業用水利用の効率化に向けたICT技術の活用も推進していくこととしています。

特に、今年完了を迎える九頭竜川下流農業水利事業地区においては、現在、ICTを活用した新たな農業水利システムの実証試験に取り組んでおります。パイプライン化により得られる清涼で安定的な用水を活用し、米やらっきょう、トマトに加え、にんじん、ほうれん草などの新規作物を組み合わせた先進的な農業を展開され、益々、発展されることを期待しております。

土地改良区においては、このような農業・農村構造の大きな変化に適切に対応できる仕組みや体制を整えていく必要があります。このため、一昨年は農地中間管理機構との一体事業、非申請・農家負担なしの耐震化や突発事故対策の事業などを創設し、昨年は土地改良区の業務運営の適正化を図るべく、組合員資格の見直しや貸借対照表の作成の義務化などを内容とする土地改良法の改正が行われました。

これらはいずれも、農地の集積に伴い、農村における担い手と土地持ち非農家との連携が課題となる中で、基盤整備や施設の保全管理を将来に向けて持続可能なものとしていくための措置であります。

北陸農政局としましても、土地改良区の体制強化を含め農業農村整備事業等の地域施策を推進し、素晴らしい北陸の農業・農村を次の世代に引き継ぐことにより、豊かな食生活とそれを支える地域社会を維持していきたいと考えております。

結びに当たり、本年も引き続き農政の推進についてご理解とご協力をお願いするとともに、福井県土地改良事業団体連合会の皆様にとって実り多い年となりますことをご祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。

新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会　会長　　二　階　俊　博

平成３１年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年もまた、我が国は非常に多くの災害に見舞われました。６月には大阪北部地震が、６月下旬から７月上旬にかけては、西日本を中心に、北海道や中部地方など全国的に広い範囲で台風７号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が、９月には北海道胆振東部地震が、また、７月から９月にかけては５度に及び台風が我が国に上陸し、多大な被害をもたらしました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思います。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に七割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。全国の皆様の大きな力によって、平成３１年度当初予算は、重要インフラの緊急点検等を踏まえた防災・減災、国土強靱化のための緊急対策546億円を含めて4,963億円、平成３０年度の第２次補正予算1,488億円を合わせると、6,451億円となりました。ひとえに皆様方のご尽力の賜であると、心から感謝致します。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、私たちの代表として当選された進藤かねひこ参議院議員も全国を飛び回り、元気に頑張っており、その評価は極めて高いものがあります。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。更には、進藤議員と車の両輪たらんとする宮崎まさお氏も、来たるべき闘いに向けて、全国の皆様の所へ伺っているところであります。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、昨年の通常国会では改正土地改良法が成立し、土地改良にとって、２年続けて改正された新しい土地改良法を基軸に、新たな展開を図る大きな節目の年となります。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

福井県農林水産部 農村振興課　課長　　木　戸　敏　浩

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
水土里ネットふくいの会員の皆様方には、新年を迎えられ、ますますご健勝のこととお慶び申し上げますとともに、日頃より農業農村整備事業の推進を通じ、本県の農業・農村の振興に多大なご尽力を頂いておりますことに、心よりお礼申し上げます。

さて、昨年の本県で５０年ぶりの開催であり、「平成」最後の大会としても注目された「福井しあわせ元気国体・障スポ」では、福井県が天皇杯・皇后杯を獲得し完全優勝を果たしました。また、全国に先駆けた両大会の融合や県民総参加のおもてなしなど、大きな成功を収めることが出来たことも記憶に新しいところです。大会期間中は、県内各地で全国トップクラスの整備率を誇る農業基盤をベースとする美しい農村風景、元気な生産者の笑顔や美味しい農産物も大会の盛り上げに一役買っていたのではと思っております。

さて、時代は平成から新たな時代へと歩み始めようとしております。農業・農村を取り巻く情勢も大きく変化しております。国は、農業の成長産業化に向け様々な施策を進めており、更なる競争力強化に向け、農地中間管理機構（農地バンク）事業の見直しのほか、ドローンやＩＣＴなどを活用した「スマート農業」の導入を加速化することとしております。

また、昨年は大規模な自然災害が多発した年でもありました。

７月の西日本豪雨では、河川の氾濫等により甚大な被害が発生し、ため池の防災・減災対策の重要性もクローズアップされました。９月には、台風２１号の上陸直後に北海道胆振東部において、震度７（M6.7）の地震による大規模な土砂崩れとともに「ブラックアウト」による大規模停電が発生しました。

こうしたことを受けて、国は、相次ぐ自然災害に対する防災・減災、国土強靭化のための緊急対策を今後３年間で集中的に実施する方針を定め、平成３０年度補正予算及び平成３１年度当初予算では、農業水利施設・ため池の緊急対策として約１千億円を計上しました。

さて、「土地改良法」についてです。

昨年６月８日に一昨年に続き、再度の大幅改正がなされました。この度の改正は土地改良区の運営に影響を与える見直しとして、かねてからの課題であった土地改良区の組合員資格や運営体制改善の二つの面について改正されております。本県では、１２５（平成30年11月末現在）の土地改良区により県の耕地面積の８割が区域面積としてカバーされております。土地改良区は、土地改良施設の整備や維持管理を通じ、地域農業を支えるとともに農村環境の保全や防災・減災対策等の多様な役割を果たしております。

今回の改正を一つのきっかけとして、それぞれの土地改良区で新たな時代に見合う足腰の強い組織づくりが進められ、多様な公益的役割をフルに果たすことができるよう、皆様と一緒になって取り組んでいく所存です。

そのためにも全国トップレベルの生産基盤を活かし、農地の集積・集約による大規模経営の推進、園芸導入による多角化などを進め、元気な農業農村づくりに全力で取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝と益々のご活躍をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成３１年　元旦

新年を迎えて

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員　進　藤　金日子

新年明けましておめでとうございます。昨年は、自然災害が頻発した年でした。被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。平成最後の年となる今年も、「平成」の由来の如く「地平天成」（地平らかにして天なる：国の内外、天地とも平和が達成される）の年になることを強く願いたいと思います。

さて、昨年末に平成３０年度第２次補正予算と平成３１年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,451億円（３０年度補正：１，４８８億円、３１年度当初：4,963億円）を確保することができました。これもひとえに、農業改革の推進に不可欠な土地改良の実施に向けた現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を、政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。予算は、人任せでは確保できない、自ら汗をかき実働して確保する、まさに「闘う土地改良」の成果であると言えます。この貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、何と言っても「国土強靱化」に重点が置かれたことです。重要インフラの緊急点検等を踏まえた「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」として補正と当初を合わせて1,091億円計上され、制度的にも防災重点ため池整備等で大幅な拡充がなされました。また、ここ２回にわたる土地改良法の大改正を踏まえ、土地改良区の複式簿記の義務化等に対応した土地改良区体制強化事業が整備されるなど、現場の声に即した具体的な対応策も示されました。農業競争力強化関係でも現場の実態に即した要件設定やハードとソフトの連携強化策などが盛り込まれています。今回の予算は、土地改良の原点である現場重視の視点が更に強化されたものとなっています。この貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

全国トップクラスのほ場整備率により、農地集積率78％を達成している福井県におきましても、一方で、施設の老朽化が進行しその対策が喫緊の課題であるとも聞いております。計画的且つ効果的な事業の実施により、農業の競争力強化、農村地域の防災減災対策にご尽力いただきたいと思います。

また、皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫（まさお）さん（全国水土里ネット会長会議顧問）も「土地改良は未来への礎」を訴えて全国各地を精力的に巡回しています。宮崎さんと私が皆様と連携して「闘う土地改良」を共闘できるようにご指導とご支援を心からお願い申し上げます。

本年も引き続き皆様と一緒になって諸課題の解決に向けて専心努力してまいる覚悟です。本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

「闘う土地改良」－未来への礎を築くために

全国水土里ネット会長会議　顧問　　宮　崎　まさお

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

私にとっては、いよいよ決戦の年となりました。

全国の関係者の皆様の土地改良に対する熱い思いに触発され、全国水土里ネットの二階俊博会長が提唱された「闘う土地改良」の旗のもと、不退転の覚悟で政治活動に取り組むことを決意し、一昨年末、30年間勤めた農林水産省を地域整備課長を最後に退職しました。昨年1月には全国水土里ネット会長会議顧問を仰せつかり、この一年間、全国各地で地域の実情や意見をつぶさに拝聴させていただきました。これまでの移動距離は地球5周分の20万kmになりました。

昨年は、西日本豪雨や北海道胆振東部地震をはじめとする地震、台風、さらには噴火など、全国各地で自然災害が相次ぎました。被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願ってやみません。また、被災地の状況をお聞きするたびに、防災・減災対策は一刻の猶予も許されないとの思いを強くしています。

土地改良は、先人が創り上げてきた農地やかんがい排水施設などをそれぞれの時代に応じて整備を行い、次の世代に引き継いでいくシステムです。つまり、土地改良は、現在の農業の発展はもとより、日本の「未来への礎」を築くものであると考えています。

私は、現場でお聞きした様々な課題を解決し、日本のすばらしい農山漁村を「未来への礎」として、子どもや孫たちに引き継いでいくため、「大切な農地と水を守る」「農山漁村を災害から守る」「美しい農山漁村を守る」という３つの目標のもと、これを実現するため、土地改良の安定的な予算確保や災害に強い農山漁村づくりなど、７つのチャレンジに全力で取り組んでいく考えです。

とりわけ土地改良予算については、「闘う土地改良」の旗のもと、関係者の努力により回復基調にはありますが、地域の切実な要望に応えるためには、当初予算の回復・拡大が必要です。国政の場において、進藤金日子議員が「闘う土地改良」の先陣を担っておられますが、私もその一翼となれるよう、全身全霊をもって活動に打ち込んでいく考えです。そして、現場と国政の間を、私の好きなテニスのボールのように素早く往復し、現場の声を施策に反映していきたいと考えています。

今年は天皇陛下が御退位され、元号が変わる大きな節目の年です。新しい時代の始まりの年でもあり、土地改良にとっても大きく羽ばたく年にしなければなりません。皆様の土地改良に対する熱い思いと大きな力を、私、宮崎まさおに賜りますようお願いいたします。

むすびに、本年が皆様にとって実り多き年となりますように祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。

宮崎まさお７つのチャレンジ

1. 土地改良の安定的な予算確保にチャレンジ
2. 災害に強い農山漁村づくりにチャレンジ
3. 農地や水を守り育てる体制の強化にチャレンジ
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承にチャレンジ
5. 世界に日本の農林水産業と農山漁村のすばらしさの発信にチャレンジ
6. 女性の視点を大切にした農山漁村政策の展開にチャレンジ
7. 農林水産業と農山漁村への国民の理解づくりにチャレンジ

インフォメーション

平成31年度 農村振興局関係予算概算決定の重点事項

■ 主要予算総括表　（単位：億円）

事　　項	平成30年度当初予算額	平成30年度補正予算額	平成31年度　概算決定額			
			「臨時・特別の措置」を除くA	「臨時・特別の措置」 B	概算決定額 A＋B	対前年度比
一般会計						
公共事業	**4,242**	**2,055**	**4,306**	**566**	**4,872**	**114.9%**
農業農村整備事業	3,211	1,413	3,260	511	3,771	117.5%
農山漁村地域整備交付金	917	50	927	50	977	106.6%
海岸事業	33	5	36	5	41	123.5%
災害復旧事業等	82	587	83	―	83	101.7%
非公共事業	**1,552**	**85**	**1,569**	**―**	**1,569**	**101.1%**
農村振興局予算総額	**5,794**	**2,140**	**5,875**	**566**	**6,441**	**111.2%**

■ 平成31年度 農業農村整備事業関係予算 概算決定の概要　（単位：億円）

事　　項	平成30年度予算額	平成31年度　概算決定額			平成30年度補正追加額 D	合　計 C＋D
		「臨時・特別の措置」を除くA	「臨時・特別の措置」 B	概算決定額 C＝A＋B		
農業農村整備事業（公共）	**3,211**	**3,260**（101.5%）	**511**	**3,771**（117.5%）	**1,413**	**5,184**（161.5%）
農業農村整備関連事業（非公共） 農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業	**499**	**508**（101.8%）	**―**	**508**（101.8%）	**40**	**548**（109.9%）
農山漁村地域整備交付金（公共）（農業農村整備分）	**639**	**650**（101.7%）	**35**	**685**（107.1%）	**35**	**720**（112.6%）
計	**4,348**	**4,418**（101.6%）	**546**	**4,963**（114.1%）	**1,488**	**6,451**（148.4%）

注１：各事項の下段（　）内は、平成30年度当初予算額　　注２：【補正予算】は、平成30年度第2次補正予算

1　担い手への農地集積・集約化等による構造改革の推進

（１）農地中間管理機構による農地集積・集約化と農業委員会による農地利用の最適化

①農地の大区画化等の推進＜公共＞

農地中間管理機構が借り入れている農地について、農業者からの申請によらず、都道府県が、農業者の費用負担等を求めずに基盤整備事業を実施すること等により、地域の特性に応じた農地の大区画化・汎用化等を推進

（農業農村整備事業で実施）**1,297億円の内数**（1,110億円の内数）　【補正予算】**348億円**

②農地耕作条件改善事業

農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化や高収益作物への転換を推進するため、機構による担い手への農地の集積・集約化が行われる地域等において、農業者の費用負担の軽減を図りつつ、事業を実施すること等により、区画拡大等を促進

300億円（298億円）

2　水田フル活用と経営所得安定対策の着実な実施

（1）高収益作物への転換のための基盤整備

①水田の畑地化・汎用化の推進＜公共＞
高収益作物への転換を促進するため、水田の畑地化・汎用化のための基盤整備を推進
（農業農村整備事業で実施）**1,297億円の内数**（1,110億円の内数）
【補正予算】**518億円**

②農地耕作条件改善事業（再掲）
基盤整備を機動的に進めるとともに、高収益作物の転換に向けた計画の策定から営農定着に必要な取組を支援
300億円（298億円）

3　強い農業のための基盤づくりと「スマート農業」の実現

（1）農業農村基盤整備（競争力強化・国土強靭化）

①農業農村整備事業＜公共＞
農業の競争力強化や農村地域の国土強靭化を図るため、農地集積の加速化・農業の高付加価値化のための農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利施設の長寿命化や豪雨・耐震化対策等を推進
3,260億円（3,211億円）
【補正予算】**1,413億円**

②農地耕作条件改善事業（再掲）
（既述につき省略）
300億円（298億円）

③農業水路等長寿命化・防災減災事業
農業生産活動の基盤となる農業水利施設の機能を安定的に発揮させるため、機動的かつ効率的な長寿命化対策及び防災減災対策を支援
208億円（200億円）

④農山漁村地域整備交付金＜公共＞
地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策に必要な交付金を交付
927億円（917億円）
【補正予算】**50億円**

（2）畜産・酪農の競争力強化

①草地関連基盤整備事業＜公共＞
畜産経営規模の拡大や畜産主産地の形成に資する飼料生産の基盤整備を推進
（農業農村整備事業で実施）**83億円**（69億円）
【補正予算】**36億円**

4　農山漁村の活性化

（1）日本型直接支払の実施

①多面的機能支払交付金
農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付
487億円（484億円）

②中山間地域等直接支払交付金
中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、条件不利地域での農業生産活動を継続して行う農業者等に交付金を交付
263億円（263億円）

（2）中山間地農業の所得向上を始めとした農山漁村の活性化

①中山間地農業ルネッサンス事業＜一部公共＞
傾斜地等の条件不利性や鳥獣被害の増加など中山間地農業が置かれている状況を踏まえつつ、地域の特色を活かした多様な取組を後押しするため、多様で豊かな農業と美しく活力ある農山村の実現や、地域コミュニティによる農地等の地域資源の維持・継承に向けた取組を総合的に支援
440億円（400億円）（優先枠等を設けて実施）

②中山間地域所得向上支援対策

中山間地域において、収益性の高い農産物の生産・販売等に本格的に取り組む場合に、実践的な計画策定、水田の畑地化等の基盤整備、生産・販売等の施設整備等を総合的に支援

【補正予算】
280億円
（うち本体 80億円
うち優先枠 200億円）

③「農泊」の推進

増大するインバウンド需要等を呼び込み、農山漁村の所得向上を図るため、「農泊」をビジネスとして実施できる体制の構築や地域に眠っている資源の魅力ある観光コンテンツとしての磨き上げ等の取組、古民家等を活用した滞在施設、農林漁業体験施設等の整備を一体的に支援
（この他、国有林において、多言語による情報発信、木道整備等を実施）

（農山漁村振興交付金で実施）
53億円
（57億円）

④農山漁村振興交付金

農山漁村のコミュニティ機能や定住条件の強化のためのICTの活用、都市農業の振興、福祉農園の整備等による農福連携、特色ある地域資源の活用等による山村活性化、生産施設等の整備等の取組を総合的に支援

98億円
（101億円）

⑤鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進

鳥獣被害対策実施隊の増設・捕獲活動の一層の強化、侵入防止柵の設置やICTを活用した「スマート捕獲」等の鳥獣被害防止対策とともに、ジビエ利活用の拡大に向けたモデル地区の横展開を支援するほか、森林被害防止のための広域・計画的な捕獲等をモデル的に実施

104億円
（105億円）

【補正予算】
3億円

⑥特殊自然災害対策施設緊急整備事業

火山の降灰被害に対応するための洗浄用機械施設等の整備やこれと一体的に行う用水確保対策等を支援

2億円
（2億円）

【補正予算】
2億円

5　重要インフラの緊急点検等を踏まえた防災・減災、国土強靭化のための緊急対策

①農業水利施設の緊急対策＜公共＞

農業水利施設について、耐震化対策などの非常時にも機能を確保するために必要な施設の改修・更新等を実施

【臨時・特別の措置】
（農業農村整備事業）
511億円の内数
（農山漁村地域整備交付金）
50億円の内数

【補正予算】
（農業農村整備事業）
511億円の内数
（農山漁村地域整備交付金）
50億円の内数

②ため池の緊急対策＜公共＞

下流への影響が特に大きく、早急に対策が必要な防災重点ため池について、機能や安全性確保のための改修や利用されていないため池の統廃合等を実施

【臨時・特別の措置】
（農業農村整備事業）
511億円の内数

【補正予算】
（農業農村整備事業）
511億円の内数

③海岸堤防等の緊急対策＜公共＞

海岸堤防等について、高潮や津波に対し必要な堤防高確保のための整備や耐震対策等を実施

【臨時・特別の措置】
（海岸事業）
8億円
（農山漁村地域整備交付金）
50億円の内数

【補正予算】
（海岸事業）
8億円
（農山漁村地域整備交付金）
50億円の内数

お問い合わせ先　福井県土地改良事業団体連合会 総務部 総務課　（電話：0776-23-7777）

「第41回全国土地改良大会 宮城大会」に参加

全国土地改良事業団体連合会　二階会長挨拶

（右）壇上で表彰を受ける齊藤理事長

去る10月16日（火）宮城県仙台市の「宮城県総合運動公園」を会場に、「第41回全国土地改良大会　宮城大会」が開催されました。福井県内からは18人の方が、また、全国から6，000人を超える土地改良関係者が参集しました。

宮城大会は、「先人の意思を受け継ぐ「伊達の地」に水土里の絆　復興の歩み」をテーマに、「食」「農」「環境」を支える基盤、土地改良事業の価値や役割を広くアピールし、震災から7年余り経ち、力強く復興している農業・農村の姿を全国の土地改良関係者に示し、寄せられた多くの支援に対して感謝の意を表す機会でもありました。さらに、「水土里」を未来へ引き継いでいくことを宮城県農業高等学校の生徒が力強く宣言し、満場の拍手のもと、大会宣言が採択されました。

次いで行われた土地改良事業功労者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰46名に表彰状と記念品が贈与されました。本県からは長きに亘って土地改良事業の推進に尽力されてきた功績が称えられ、坂井北部土地改良区の齊藤惠治理事長が農林水産大臣表彰に、岡保土地改良区の渡邉幸雄理事長が全土連会長表彰の栄誉に輝いています。

「農業農村整備の集い」に参加

▲挨拶をされる二階俊博全土連会長

去る11月14日（水）、東京都千代田区「シェーンバッハ・サボー」を会場に、全国から約1，300名の土地改良関係者が集まり「農業農村整備の集い　―農を守り、地方を創る予算の確保に向けて―」が開催されました。福井県からは21名が参加しています。会場には、吉川貴盛農林水産大臣をはじめ多数の国会議員、農村振興局幹部ら関係者が参集し、盛大に開催されました。

二階会長の主催者挨拶、吉川農林水産大臣をはじめとする来賓挨拶の後、宮崎まさお都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の情勢報告と、全土連による事例発表が行われました。

最後に要請書案文が満場一致で採択され、一同が予算確保への積極的な活動を約束し、ガンバロウ三唱を唱和し盛会のうちに幕を閉じました。

要請活動報告

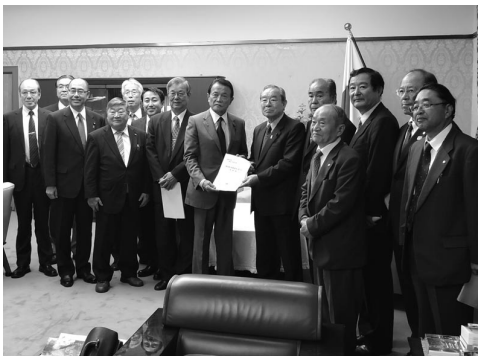
県内 各 農業農村整備事業推進協議会　合同要望・提案活動

▲ 要請書の説明を受ける、山崎正昭参議院議員

去る11月14日（木）、15日（金）、福井県内の5管内ごとに組織されている農業農村整備事業推進協議会から土地改良区の理事長らが出席し、平成31年度当初予算の確保に向けて要請活動を行いました。福井県土地改良事業団体連合会からは廣畑佐一副会長と事務局が参加しています。

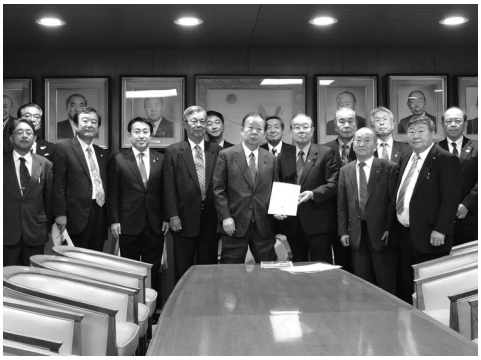
競争力強化に向けた生産基盤の整備、農業水利施設の長寿命化対策、防災減災対策の推進に向けた平成31年度予算の確保、並びに農業水利施設の維持管理体制強化への支援や、農事用電力料金の維持に向けた働きかけの強化を求める要望書を携え、14日には県選出国会議員に、15日には農林水産省において情報交換会の場も設けられたほか、農村振興局幹部に対して要請活動を行いました。

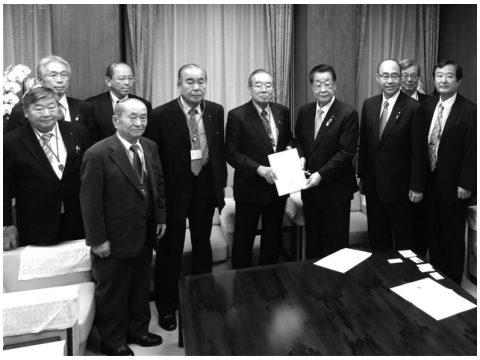
北陸四県土地改良事業団体連合会協議会　中央要請


▲麻生財務大臣　へ要請

去る11月13日（水）、14日（木）、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会は各連合会から役職員が出席し、農業農村整備事業推進に関する要請活動を行いました。福井県土地改良事業団体連合会からは廣畑佐一副会長と事務局が出席しました。

13日には、麻生太郎財務大臣をはじめ、財務省幹部、主計局幹部、及び農林水産省幹部、農村振興局関係部局に対して、また、14日には自由民主党二階俊博幹事長ならびに、吉川貴盛農林水産大臣に対して、各県の現状を説明すると共に平成31年度予算の確保について強くお願いしました。


▲自由民主党　二階幹事長　へ要請


▲吉川農林水産大臣　へ要請

インフォメーション

土地改良区の維持管理計画の変更手続が簡素化されます

農林水産省では、維持管理計画の変更手続の合理化を図る観点から、平成31年4月1日以降、土地改良区の組合員の同意省略の範囲を見直すこととしております。

これにより、土地改良区は、施行地域を変更する場合を除き、維持管理計画書の変更について組合員の同意徴集手続を省略することが可能となります。

維持管理計画の変更手続の見直し（同意省略の拡大）の概要

1．改正のポイント

維持管理計画の変更手続の合理化を図る観点から、土地改良区の維持管理計画の変更手続については、施行地域を変更する場合を除き、組合員の同意手続を省略し、総会又は総代会の議決により、都道府県知事の認可を受けることができるようにします。

2. 改正の背景

土地改良区が維持管理計画の重要な部分を変更する場合には、組合員の2／3以上の同意を得る必要がありました。しかし、土地改良区の場合は、維持管理に関しては、総会又は総代会の議決を経ることで、直接又は間接に組合員の同意を得ていることから、組合員の意思確認手続が二重となっていました。

このため、土地改良区の維持管理計画の変更手続の合理化を図る観点から、維持管理計画を変更する場合（施行地域を変更する場合を除く。）に必要とされていた組合員の同意手続を省略できるよう省令等の改正を行います。

3. 改正のスケジュール

平成31年4月1日施行予定

今回の変更手続の簡素化を踏まえまして、土地改良区において、維持管理計画の変更手続が適切に行われるよう取組をお願いいたします。

お問い合わせ先　福井県土地改良事業団体連合会 事業部 土地改良課　（電話：0776-23-7775）

土地改良区だより　2018年11月

土地改良区の活動等についてお知らせします。土地改良区の情報を募集中です。

【 足羽川堰堤土地改良区連合 】

【世界かんがい施設遺産】足羽川用水 を散策してみよう!　【11月3日（土）】

11月3日、昨年に引き続き、世界かんがい施設遺産に登録された「足羽川用水」のPRを目的として、イベントが開催されました。2回目でもあり、更に用水を身近に感じてもらえる内容になっていました。

当日は、予定の40名を超える参加者が集まり、4班に分かれスタッフの先導で足羽川頭首工を出発し、各要所で施設の説明を聞いていました。コース中ほどには徳光用水が流れており、水田や里山の景観が広がるビューポイントでもあります。今回の目玉企画は、この徳光用水のボート下り。水路の中からの景色を見るのはなかなかない機会です。参加者の皆さんはどんな景色を見たのか、ボートの上ではどの顔も大変楽しそうで、貴重な機会を満喫された様子でした。

今回の参加賞は一乗谷あさくら水の駅で収穫した新米コシヒカリのおにぎりと、新たに制作した足羽川頭首工の頭首工カードと下敷き。頭首工カードはなかなか人気があったようです。

スタッフになられた土地改良区や地元の皆さんの施設への愛情が伝わるイベントでした。

▲ 足羽川頭首工にて施設の説明

▲ 気持ちよさそうに用水路を流れています

▲ 調整水門にてパネルを使って説明

お問い合わせ先　福井県土地改良事業団体連合会 総務部 企画開発課　（電話：0776-23-7777）

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2018　結果報告

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2018について、審査が10月5日に実施され、全国土地改良事業団体連合会より審査結果の報告がありました。今回は、県内から317点の応募がありました。今号より、受賞作品が表紙を飾ってまいりますので、お楽しみに。

賞		学校名・学年・氏名			タイトル	応募団体
クボタ賞		福井市文殊小学校	5年	田中陽悠	いねかり	足羽文殊土地改良区
入　選		福井市上文殊小学校	6年	諏訪泰士	気分は古代人!はじめてのはさばがけ	福井県土連
		福井市六条小学校	3年	西岡偉琉	たきのように流れてる水	足羽川堰堤改良区連合
		福井市酒生小学校	5年	杉本元志	今年の夏は豊作だ	足羽川堰堤改良区連合
		福井市六条小学校	5年	西岡蒼琉	美しい水	足羽川堰堤改良区連合
		福井市六条小学校	6年	寺井和輝	足羽川頭首工	足羽川堰堤改良区連合
		福井市文殊小学校	4年	山田千摘	きゃべつのなえをうえている	足羽文殊土地改良区
		福井市文殊小学校	5年	水野嵩大	水路を管理する水門	足羽文殊土地改良区
団体賞	水土里ネットふくい会長賞	福井市中藤小学校	2年	有村果林	おじさんの田んぼは生き物のおうち	福井県土連
	足羽川堰堤土地改良区連合理事長賞	福井市酒生小学校	1年	杉本元誠	ぼくの大すきなコイ	足羽川堰堤改良区連合
	足羽文殊土地改良区理事長賞	福井市文殊小学校	6年	蓮川愛佳	はじめて乗ったトラクターから見た風景	足羽文殊土地改良区
	松ヶ鼻農地・水・環境保全組織会長賞	越前市立北日野小学校	1年	横井梨奈	かわあそび	松ヶ鼻土地改良区

お問い合わせ先　福井県土地改良事業団体連合会 総務部 企画開発課　（電話：0776-23-7777）

行　事　予　定

2月	1日(金)	換地関係実務研修会 (会場:福井県国際交流会館)	土地改良課
2月	8日(金)	第１３５回監事会	総務課
2月	１６日(土)	第２１６回理事会	総務課
3月	２２日(金)	第６１回通常総会 (会場:福井県自治会館)	総務課

※本誌の発行日によって記載している行事が終了している場合や、記載がない行事が実施される場合、また詳細が未定のものは変更される場合がありますのでご了承下さい。

農業基盤整備資金利率のお知らせ

平成31年2月21日付けの日本政策金融公庫 農林水産事業の農業基盤整備資金貸付利率についてお知らせします。
問い合わせ先:(株)日本政策金融公庫福井支店 TEL:0776-33-2385 HP: http://www.jfc.go.jp/a/

（単位：%）

区分		融資期間にかかわらず	融資期間別（一例）（%）			
			５年	１０年	１５年	２０年
補助事業	県　営	0.35	—	—	—	—
	団体営	0.20	—	—	—	—
非補助	一　般	0.20	—	—	—	—
	利子軽減	0.20	—	—	—	—
災害復旧		—	0.16	0.16	0.17	0.20

水土里ネットふくい（福井県土地改良事業団体連合会）の連絡先

〒910-0014 福井県福井市幾久町８番17号 (FAX) 0776-24-1400 http://www.midorinet-fukui.jp

総務課、企画開発課 (TEL) 0776-23-7777 soumu@midorinet-fukui.jp

土地改良課 (TEL) 0776-23-7775 jigyo4f@midorinet-fukui.jp
（管理・情報担当、水土保全・基幹水利・多面的機能支払交付金担当、地籍・換地担当、水土総合強化センター）

計画設計課
環境計画課
（農村環境分析センター） (TEL) 0776-23-7776 jigyo3f@midorinet-fukui.jp

嶺南事務所 〒919-1556 福井県三方上中郡若狭町玉置11-58 (TEL/FAX) 0770-57-2727

発行所 福井県土地改良事業団体連合会 編集兼発行責任者 野坂雄二